

# ◇ 令和2年度指定管理者事業評価書

施設名	水生植物公園みずの森			指定管理料	利用料金	支出	経理の状況	施設運営の方針
施設所管課	建設部	公園緑地課	初年度	175,490,000円	12,812,800円	188,237,222円	利用料金の実績は計画より少なかったが全体としてバランスのとれた収支であった。	都市公園であるみずの森の豊かな自然と調和を図り、子どもから大人まで利用できる公園としての運営
施設HPアドレス	<a href="http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/">http://www.seibu-la.co.jp/mizunomori/</a>		2年目	177,100,000円	12,418,500円	187,318,706円	新型コロナウイルスの感染拡大による臨時休園などにより人件費を抑えながら園地整備を主体に支出した。	見やすく、いつ来ても見所がある公園を目指すとともに、安らぎの空間を提供するよう運営を行った。
指定管理者名	近江鉄道ゆうグループ		3年目					
指定期間	平成31年4月1日 ~ 令和6年3月31日		4年目					
評価対象期間	令和2年4月1日 ~ 令和3年3月31日		5年目					

●総合評価の基準		
5	☆☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆☆である
4	☆☆☆☆	評価基準のすべてが☆☆☆以上で、かつ、最も多い評価が☆☆☆☆である
3	☆☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆☆である
2	☆☆	評価基準の最も多い評価が☆☆である
1	☆	評価基準に☆が1以上ある

○その他の項目	
公募・非公募の別	公募
使用料・利用料金制の別	利用料金制
指定管理者による運営開始日	平成25年4月1日
施設の供用開始日	平成8年7月13日
指定管理導入前の運営形態	市直営

## ◆総括評価を概括した総合評価の所見(成果・改善等)

●指定管理者の総合自己評価…☆☆☆	●市(施設所管課)の総合評価…☆☆☆
<b>年度の管理・運営に係る事業目標(年度当初に記入)</b> ・2017年より始めた「ハスいっぱいプロジェクト(旧:ハス100鉢プロジェクト)」を引継ぎ、市民の皆様と協働で植え付けを行うことで、園内がハスでいっぱいになった風景を来園者にご覧いただくとともに、活動を通してかつての群落の風景を少しでも多くの方の心にとどめておけるよう努める。 ・日本有数の水生植物をテーマにした植物園として、ハス・スイレンの魅力を国内外に発信し、つなげていく「水辺のボタニカル・ミュージアム」を目指す。そのため、従業員の維持管理技術や知識・経験など資質向上にも努め、貴重な植物を適切に生育・繁殖させ、開花・結実事例や品種数を増やすほか、管理育成手法などを適正に記録し、共有していく。	<b>事業目標および管理・運営に対する評価(事業年度終了後記入)</b> ・ハスいっぱいプロジェクトは、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響で一般参加者によるハス植え付け作業イベントは実施できなかったが、みずの森スタッフ(関係者)でハス植え付けがなされ、ハス池いっぱいハスが栽培展示された。引き続きハスの話題提供に努められたい。 ・みずの森は、水生植物に特化した施設であるが、水生植物シーズン外は草花や樹木など様々な植物が年間を通じて楽しめる空間として演出することが大切である。このことは有料植物園の植物として季節の移ろいが楽しめる工夫や個々に観賞いただけるようにきめ細やかな管理が必要であり、刻々と変化する気象や植物の状態を掌握し適切な管理をする必要がある。また、年間を通じてみずの森への来園のきっかけとなるように植物管理とPR担当が連携して魅力を作り上げて頂きたい。
<b>事業目標および管理・運営に対する自己評価(事業年度終了後記入)</b> ・新型コロナウイルスの感染拡大を受け、4月11日から5月31日まで臨時休園をすることとなり、ハスいっぱいプロジェクトをはじめ各種展示会やコンテストを急遽取りやめることになった。延期できるものは日程を変更したほか、ハンギングバスケット&コンテナ展では準備いただいていた作品の写真を集めWEBにて作品展を開催した。また、ゴールデンウィークに向けて準備していたハンギングバスケットを周辺の施設へお届けし、少しでも多くの方にご覧いただけるよう新たな取り組みを行った。 ・当該年度においては、植物園としての新たな魅力創出のため、アトリウム内の一部にサボテンエリアを設置。大型種から小型種まで様々な種類を揃え、スイレンと共に1年を通して楽しめるポイントを設けた。 ・ハロウィンやクリスマス、干支などの装飾展示についてもロータス研究グループ様の助言をいただきながら作成し、写真スポットとしてお客さまに喜んでいただけた。	<b>公募・非公募、使用料・利用料金制の導入についての効果の検証</b> (応募状況:公募) 施設管理に関して、民間による高い管理技術と経済的運営を行う管理者を求めため公募による選定とした。 (利用料金制度:導入) 今期から、利用料金制を導入したことに伴い、中学生以下の入園料を無料、65歳以上の大人の入園料を半額にしたことにより、65歳以上の入園者増につながったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響により、入園料収入は昨年度と同じ程度となった。 昨年度から引き続き様々な多くのイベント・展示会が実施されている。また、植物園でのイベントになるように考慮し、新たなニーズにも迅速に対応した運営を進められたい。

◇施設に係る主な指定管理業務	
水生植物公園みずの森の運営管理において、目指す植物園像の趣旨を十分理解して、管理業務仕様書に沿って次の業務を行う。 (1)有料植物園としての植物等の管理・展示業務、(2)利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務、(3)快適な環境を提供するための施設の維持管理業務、(4)ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業	

◆評価基準	
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりもはるかに優れた内容である
☆☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、その水準よりも優れた内容である
☆☆☆	仕様書・協定書等の基準を遵守し、概ねその水準に沿った内容である
☆☆	仕様書・協定書等の基準は遵守し、若干の改善が必要な内容である
☆	仕様書・協定書等の基準を遵守しておらず、改善が必要な内容である

植物園としての植物等の管理・展示に関する業務（仕様書その1 p 4～12、17、その2 P 4～61）				
評価項目1	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	コミュニティ広場を中心に季節の花鉢、木箱、ハンギングバスケットなどのボリュームをアップし、開花リレーを展開できた。樹木については、定期的な薬剤散布の他、夏期灌水（ホース灌水、スプリンクラー等）、枯損枝処理等を実施した。また、より植物に親しんでいただくために、開花状況等を知らせる表示マークを適宜樹名板に取り付けた。	上半期評価	コミュニティ広場の展示装飾において、種苗会社等の協力を得て、魅力ある展示になっていることは評価する。しかし、日によっては展示装飾のボリュームや品質の不足があり、当園技術顧問の評価を下げるがあった。このことから、植物の栽培管理においては、日々の途切れのない基本的な植物管理が重要であり、かん水作業や病害虫防除についてチェック体制の強化が必要であり、適正に栽培管理が実施され常に一定のボリュームや品質を保って頂きたい。
	☆☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	上半期に引き続き、コミュニティ広場を中心に季節の花鉢、木箱、ハンギングバスケットなどのボリュームをアップし、開花リレーを展開できたことに加え、秋の七草など季節の花々の見どころを演出できた。樹木については、定期的な薬剤散布の他、シダレザクラの柵の作り直しやB池法面整備など、修景整備を行った。	下半期評価	ハンギングバスケット類の品質や演出において、出来、不出来の差をなくする仕組みづくりが必要である。アイスチューリップ・キクの展示装飾・干支の展示・クリスマスローズ花壇等はみずの森ならではのもとなり引き続き魅力ある植物展示を構築されたい。また日々の植物管理について、一時的なミスであってもこれまでの管理作業や美しく観賞いただくといった目的を無にすることになるので見落としが起らないように注意し管理していただきたい。
	☆☆☆☆		☆☆☆	

利用者満足度を高め、入園者数を確保する業務（募集要項P 11～12、仕様書その1 p 7～8、23）				
評価項目2	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	前年度から新型コロナウイルスの感染が徐々に拡大し、4月から臨時休園となった影響で、上半期合計は43,929名（前年比80.5%）であった。一方入園料についても大幅な減収になり、合計7,750,600円（前年度比83.7%）と減少した。ただ、再開園以降は植物の持つ癒し効果や開放的な空間が受け前年を上回るペースで来園者が増加した。	上半期評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、4月11日から5月31日まで休園となったことは、入園者や入園料に大きな影響を及ぼすことになった。過去の4月期、5月期の入園状況を鑑みると1.5万人近く見込まれ、直近の3年平均（上半期）の約51,000人を上回っていたと推測する。これは、新型コロナ感染症拡大防止の影響で、遠方への移動が制限される中、近くにある植物園に目が向けられ、植物が持つ効果などが再認識され、休園後の入園者の増加が考えられる。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	下半期もコロナウイルスの影響を受け、入園時に感染防止対策を実施するとともにイベントの参加人数を制限して実施した。また、年末になり一旦収まっていたコロナウイルスも再拡大をみせ、一部の地域で緊急事態宣言が発出されたため、1月の洋らんフェスタも集客につながらず、結果的には年間合計78,331名（前年比96.9%）に留まった。	下半期評価	新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響を上半期に入園者減に大きく受けたが、下期の展示装飾は話題で提供がされ来園のきっかけに作用し、下期の入園者数は34,402人となり近年3年の平均をみると約1万人増となった。最終入園者数はほぼ前年度と変わらない結果となった。
	☆☆☆		☆☆☆☆	

快適な環境を提供するための施設の維持管理業務（仕様書その1 p 12～15、その3 p 1～94）				
評価項目3	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	急遽臨時休園が決定したため、その休園期間を使い直営作業にて大規模な模様替えを行い、サポテンエリアをリニューアルした。また、開園後は換気を十分に行うとともに定期的な消毒など感染防止に努めた。設備の点検により、必要に応じ早めの修繕・補修を行い経費の節減に努めた。	上半期評価	開園以来、25年近く経過している施設を機器トラブルなどによる休園も無く、日々維持メンテナンスを実施して頂いている。今後も、ファシリティマネジメントや長寿命化を考慮したメンテナンスも意識し、また有料公園施設としての安心・安全・美観にも配慮したメンテナンスを実施していただきたい。
	☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	年末に漏水の発生が確認されたが、場所の特定に時間を費やしたため、約1カ月漏水の状況が続いた。（温室用温水パイプであったため、送水を停止できなかった。また、補修部費の調達に時間がかかった。）今後は故障や不具合を初期に発見できるよう、日常点検を重点項目と位置づけ、実施する。	下半期評価	年末にアトリウム加温温水管の漏水から修理がなされた。引き続き、不具合の早期発見につながるよう日常点検の実施・分析を実施されたい。ファシリティマネジメントや長寿命化に配慮したメンテナンスを入園状況や季節・作業量などのメンテナンスタイミングも考慮し効率よく目的を達せられるように実施していただきたい。
	☆☆		☆☆☆	

ノウハウを活かし、ニーズに合った自主事業の実施（提案書Ⅲ-8（6）p65～69、仕様書その1p16、18）

評価項目 4	指定管理者の自己評価		市（施設所管課）の評価	
	上半期評価	レストランでの密な状況避けるため、席数を3分2に減らし、空間を広くとって営業を行った。繁忙期のお昼などは一時待ち時間が長くなる傾向にあったが、コロナ感染防止をお願いすることで大きなトラブルも無く運営できた。利用者のニーズに応えサボテン・多肉植物の販売を6月から開始し、リピーターの獲得につながっている。	上半期評価	新型コロナウイルス感染症の中、感染症拡大防止対応を講じてレストラン運営を行って頂いた。しかし、みずの森ならではのメニューや新商品を展開されているおられるがホームページなどへの商品紹介が分かりずらく、特徴や魅力が十分に伝わらないので勿体ないところです。花苗等の販売にサボテンや多肉植物の販売を実施されたことから、来園者の満足を高めた。
	☆☆☆☆		☆☆☆	
	下半期評価	イベントについても密な状態での実施を避けるため、空間を広くとるとともに手に触れるものは適時消毒を行うなど、細心の注意を払いながら実施した。また、試飲や試食などは中止するなど対策を講じて実施した。イベントや展示会によっては季節に応じて、花苗販売を行い、満足度の向上に努めた。	下半期評価	植物の販売は、植物園の魅力を上させるアイテムであることから、可能な限りニーズへの対応をお願いしたい。（特に水生植物園としての植物のラインナップもニーズが高いところ。） 適性に、感染症拡大防止対策を講じてイベント及び運営を実施されたが、各種イベントについては事後検証をおこない精査されたい。
	☆☆☆		☆☆☆	